

平成 28 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子白鳳高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	多様な学習歴やニーズを持つ生徒の学習を支援し、社会で共生する資質と自立の基盤となる能力・態度を育む。	今年度の 重点目標	1 「学ぶ意欲」の喚起・育成 2 心豊かに他と共生する態度の育成 3 社会的自立の実現 4 地域・社会との交流推進
---------------------------	--	----------------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 () 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 「学ぶ意欲」の喚起・育成	○授業、面接指導(スクーリング)改善への取組	○授業を大切にしている態度を育てることが必要である。	○学習に集中し、意欲的に授業に参加することができる。	○ユニバーサルデザインを意識した授業 ○先進校の取組を本校の現状に合わせた取組			
	○生徒理解と環境整備	○生徒のおかれた環境を理解し、学ぶ意欲を高める必要がある。	○生徒が、安心して学校生活に取り組むことができる。	○白鳳サポーターによる交流の推進 ○各課程会議参加における情報交換により、情報を共有し、迅速な支援体制の確立 ○SC、SSW、白鳳サポーターなどの情報共有			
	○ICT教育の推進	○ICT化の進展に伴い、情報活用能力の育成が急務である。	○ICTを積極的に活用できる。	○情報教育の充実 ○NHK高校講座のICT活用 ○各教科科目でのICT(タブレット、電子黒板)活用			
2 心豊かに他と共生する態度の育成	○規律指導	○挨拶、言葉づかいなど基本的な生活習慣を身につける取組が必要である。	○すすんで挨拶をし、社会人として必要な言葉づかいを使用することができる。	○欠席、遅刻、早退報告の徹底 ○積極的な挨拶、声かけの実践 ○社会人として必要な言葉づかいの指導			
	○自己理解・他者理解の促進	○コミュニケーションの促進により、人間関係力の育成をする環境づくりが必要である。	○他者理解がすすみ、生徒同士の信頼関係も醸成し、クラスが居心地の良い場となる。	○Hyper-QU検査の活用 ○「自己理解・他者理解アプローチ事業」の活用(生徒向け講演会、教員研修)			
	○体験活動をととした社会性の育成	○社会的体験を積み重ね、さらに社会性を高める必要がある。	○諸活動において、自信と責任を持って、役割を果たしている。	○チャレンジものづくり体験 ○テーブルマナー講習会 ○乗馬体験 ○文化祭の充実 ○校外研修 ○蔵書点検ボランティア			

年 度 当 初					評 価 結 果 () 月		
評価項目	評価の具体項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 社会的自立の實現	○進路指導の充実	○経済・社会環境や雇用情勢の変化に対応するため、早期から進路に対する意識づくりをする取組が必要である。	○進路に対する意識を持ち、個々の適性にあった進路選択をすることができる。	○卒業生と語る会 ○就職・進学講演会 ○C Aと連携した職業選択 ○学年団と進路部との連携 ○フォーマルデイの実施			
	○「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の充実	○社会的自立に向けて、さらに系統的な学習の取組が必要である。	○社会的自立に必要なスキルが、学年に応じて徐々に身につけている。	○系統的な学習プログラムの構築 ○学習発表会 ○陶芸製作 ○マナー講習会 ○社会人講師の活用			
	○関係機関との連携	○支援が必要と思われる生徒について、関係機関との連携が必要である。	○個々の生徒が、それぞれのニーズに応じた進路実現を図っている。	○インターンシップ ○学校・事業所見学 ○若者サポートステーションとの連携 ○就労支援機関との連携			
4 地域・社会との交流推進	○地域資源（文化、人材）の活用	○地域の文化を理解し、地域の方との交流により、地域・社会とのかかわりを持つことが大切である。	○地域理解を深め、社会参画の必要性を理解している。	○異世代（高齢者、保育園児）交流 ○さつまいも（植付・収穫・会食）を通じた保育園児との交流 ○銭太鼓製作、体験 ○白鳳の里古代の丘生活体験			
	○地域・社会に積極的に情報発信し本校への信頼を高める。	○本校の取組が、保護者・中学生・地域の方に理解され、評価されることが求められる。	○本校の教育活動内容が、保護者・中学生・地域の方に理解されている。	○特色ある教育活動の情報を発信 ○その都度、速やかにホームページへ掲載できる体制づくり			

評価基準 A:目標を達成している B:ほぼ計画どおり推進している C:取組がやや遅れている D:一層の取組が必要である E:目標・方策の見直しが必要である
 <100%> <80%程度> <60%程度> <40%程度> <30%以下>